

## 幼児保育機関の支援スタッフさんへのお手伝い

◇私はこれまで大学の福祉系学科や子ども系学科で働いてきた関係で、数多くの福祉支援機関・施設や幼児保育機関等を訪れてきました。そこで感じたことは、幼児保育者さんたちは多忙、かつ実に多種多様な関連業務をこなさねばならない、といった実態でした。とりわけ困難性を有する子どもたちや、その保護者さんたちに対するソーシャルワーク的な支援が手薄であることを強く感じてきました。

◇さて、これまで幼児保育支援機関への配備が遅れてきたカウンセラーやソーシャルワーカーたちの配備がようやく進展を見せつつあることを嬉しく思っています。しかし小・中・高校への[学校ソーシャルワーカー]の配備状況を見ても、質的側面において満足すべき状態ではありません。ましてや幼児保育機関は、さらに満足すべき状況にはありません。そこで、まことに非力な者ですが、これまで[学校ソーシャルワーカー]としての経験を有する者として、困難さを抱えている子どもの保護者さんたちへのソーシャルワーク的な支援に関するスタッフ研修を通して、支援スタッフさんたちのお手伝いをさせていただければ、と考えた次第です。

○ 具体的には、以下の内容となります。

- ① 保育園や幼稚園等の幼児保育機関に在籍している、困難さを抱えている子どもの保護者さんたちへの[寄り添い支援]。
- ② 同じく幼児保育機関等の支援スタッフさんたちへの側面支援。⇒スタッフ研修のお手伝いや、訪問してのスーパーヴァイス活動。
- ③ 幼児保育者さんたちへのSNSやZoomミーティング等での支援や、セルフ・ヘルプ・グループへのサポート。

◎スタッフ研修については、以下の3つの内容構成となります。

① 「共感的理解に基づく受容と傾聴」に関するスキルアップ、および自己理解と他者理解を深めるための理論である「エニアグラム(Enneagram)」の学びを通じたグループワーク。なお、エニアグラムについては数多くのサイトが公開されていますが、学問的に信頼できないサイトも多くありますので、注意する必要があります。それらの中で、以下の関連サイトは信頼度が高いと判断されます。

○日本エニアグラム学会(<https://www.enneagram.ne.jp/>)

○エニアグラム・アソシエイツ(<https://enneagramassociates.com/>)

② 「悲嘆からの回復」を意味する「グリーフケア(Grief care)」のまなざしに関する学び。

⇒私は東日本大震災が生じた当時、沿岸部の被災地域で生活をしていました。そして仮設住宅が閉鎖されるまでの間、被災当事者さんたちと[寄り添い・支え合い・分かち合い]のまなざしをもって共に歩んできました。そこで、そこから学んだ支援のまなざしや支援スキルを共に体感したいと思います。そのことは、同じく困難さを抱えるお子さんの保護者さんたちへの関わり方にも共通したまなざしであると考えています。

③ ニュージーランドの保育・福祉・教育事情についての情報提供。

⇒これまで同国へは1年間の滞在に加えて17回の訪問を重ねてきました。(<https://caritas7.com/aotearoa>)

※支援契約に際しては「日本ソーシャルワーカー協会承認のガイドライン」、および[精神保健福祉士]や[社会福祉士]のガイドライン(倫理綱領)を遵守します。なお、これらは私自身の社会貢献活動のため、**すべて無償での活動となります**。交通費や教材作成のための実費相当分は、オアシス・ミニストリーの活動を支えるための必要経費として受け取りますが、決して義務的ではありません。なお、ご連絡はメールで、お願いいたします。その後、電話や訪問等で打ち合わせをさせていただきます。⇒[yamaki@shokei.ac.jp](mailto:yamaki@shokei.ac.jp)